

南條文雄 なんじょうぶんゆう 梵語學者、文學博士。嘉永二年五月十一日美濃國大垣庄丸、昭和二年十一月九日没（八十九歳）。幼名格丸、のち格順。通稱格格。號碩果、碩果生。大垣菩提寺住職深草順（號主芥）の三男、明治四年南條神興の養嗣となし得度、文雄と改名。京都高倉學寮に學ぶ。九年東本願寺の本山留學生としてヨーロッパに渡り、オックスフォード大學のバックス・シユレーの助手。「大正三藏經教分録」を共譯刊行した也。梵文の「無量壽經」を「阿彌陀經」と譯し共譯して歐州學界の貢獻。學位を得る十七年歸朝、東京大谷教授教授。翌年東京大學梵語學講師、二十四年東京大學教授（のち學監）、大正二年大谷大學總長となる。少時菱田海鶴の漢學を學び、實父及び伯兄良順（號静庵）の學識を授け漢學を究むるにたす。

『文成社』、『俗講教講話』（大正二年四月）、『中央書院』、『慰安』、『養心』（村中實精・前田謙吉共著、社長倉真氏編、大正六年一月）、『白山山房』、『言の發揮』（昭和二年一月）、『忠誠堂』、『懷書録』（昭和二年九月）、『大雄辯』（等。

